

埼玉東支部展 支部長 北条三郎

今年の支部展は、5月8日～12日迄春日部中央公民館ギャラリーで開催した。支部員14名で100号6点、50号～60号を12点、40号以下39点と壮観な展示となり連日大勢の観客で大盛況であった。

この会場は天井が吹き抜けで高く自然光がはいり、どこをとっても死角のない造りになっており人気の会場だが、今回は運よく会場が取れた。

さて、当支部はほとんどが本展の会員で構成されており会場は各自の充実と情熱を帯びた心よい展示となり、さすが！新日美という好評を多数得た。

当支部も32回展と人員は入れ替わつてはいるがかなりの高齢化が進んでいる為、若返りが必要である。

しかしそれは難しい問題であり、むしろ今の年齢は元気であり、この会場はフリーの絵を描く年齢の方が多く来るので今回は支部員募集として、ハガキには支部員募集と本展出品案内、同様に支部展目録にも入れ、会場にはコーナーを設けて第36回展新日美展の画集や案内チラシ、本展出品への要領抜粋等を設置した。

そうした処7名さまの問い合わせがあったので、本展出品への号数、出品料、方法等丁寧に説明した。おそらく何名かの出品があるものと思われる。

先ずは本展あつての支部です。今年度からは出品料五千円、10号からと、どなたでも出品しやすく費用も日本一安くあつている。

一人でも多くの出品者を得、親しみのある安心していられる会にすべく、第37回本展に向けて皆さんお互いに頑張ります。

最後に遠路はるばるお越し頂いた各支部の委員、会員様にこの場を借りて厚くお礼申しあげます。

シリーズ 画家伝 大石 亨

自然を球体、円錐体、円筒体で捉えた画家 ポール・セザンヌ

セザンヌ家は18世紀イタリアからフランスに移ってきたと言われ、父親のルイ・オーギュスト・セザンヌはフランスの寒村で貧しい職人生活を送っていた。

30歳の頃、南仏のエクサン・プロヴァンスに移住した。その頃、南仏の町々はフェルト工業でにぎわっていた。父セザンヌの手掛けたフェルト帽子の店もみるみるうちに大きくなって、やがて土地の有力者となった。

丁度その頃、1839年1月19日、ポール・セザンヌは家族の長男として生まれた。ポール9歳の時、父は破産した銀行を買い取り銀行経営に乗り出した。

恵まれた環境のもとで早く育つたポールは中学校を卒業後、父の望みに従つてエクスの方律学校に進学したものの、その頃からデッサンを描き、やがては絵画の道に進むことを熱望した。

母と妹の協力を得てやつと父からパリ行き許可をもらった。1861年、22歳の時父に伴われてパリにでた。

しかしセザンヌは大都会の喧騒を嫌つて故郷へ戻つた。父は早速銀行で働かせようとしたが、およそ事務的の仕事には無能と分かるかと再度のパリ行きを認めざるを得なかった。

今度こそ画家になるべく決意を固めたセザンヌはパリに戻るとアカデミー・スイスに通い勉強を始め、ここでピサロやシスレー、さらにはルノアールなどの画友も得て制作に励んだ。

とりわけピサロとは一緒に写生するほどの仲だった。印象派展覧会にも進んで出品し、印象派の運動にも参加した。ところが作品はさんさんの罵倒を浴び、美術学校の入試には落第、サロンにも落選、失望して再び南仏に戻つた。

以後は郷土を中心に制作活動を続け、後年に入るや印象派からも遠のき、独自の領域に立ちこもり、主としてエクスやその近隣の海辺を歩き孤独な制作に没頭した。晩年には妻とも別居し、画友とも会わず、毎日絵の具箱を背にして近郊を歩き、モチーフを探し求めた。

こうして晩年にかけておびただしい数の傑作が生まれた。

母親の死の知らせを受けても平常通り絵の具箱をかついで制作に出かけた。

1906年10月15日、写生中雨に打たれて倒れた。通りがかりの馬車に助けられたが翌日病を押して制作したのがもとで、ついに10月22日この世を去つた。享年67歳。

レモンの木 住佐美紗子

那須の森の中に「レモンの木」というギヤラリーカフェがオープンしました。新日美の委員土屋さんが奥さんと長年の夢を実らせたものです。

レモンの木という店名は若い頃熱中した曲から取つたものとのこと。山百合や野の花が咲き、緑の中の白い可愛いギヤラリーカフェです。

今は一面の緑ですが紅葉時は素晴らしいと思います。ギヤラリーには那須の山や野草、野仏などのスケッチが展示され、カフェの暖炉の脇には本展に出品した百号の作品がじっくりおさまっています。香り高いコーヒーと美味しい料理

スケッチ会の実施報告と次回予定

事業部 一柳 幸

五島美術館、等々力溪谷 2013-5-13



うっかりしていて月曜日は美術館が休みであることを失念していた。急遽近くの新緑の等々力溪谷に場所変えのスケッチとした次第。新緑というよりは、すっかり緑が濃くなっているところもあり絵描き好みのポイント豊富で嬉しい。

「木洩れ日の溪谷 そよと風は夏」と言いたい一日でありました。帰路駅の側の蕎麦屋で一献、画談に華が咲きました。

目黒不動尊 2013-6-17(月)

梅雨晴れ間の快晴、スケッチにはあり難い日和だ。目黒不動尊境内は参詣人もまばらだが、さすがに名利である。「梅雨晴れ間 獨鈷の滝の音 冴えて」

という雰囲気もよろしく、境内の緑はかなり色濃くなっていて、日本の緑の表現の難しさに苦労させられる。暑くなってきたので午後3時筆を置く。夏のスケッチには、日陰を利用するなど健康に注意しましょう。

次回予定

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合中止にします。

- 2013-7-3(月)日比谷公園 日比谷交差点側正門を入り心字池南側のあずまや10時集合
- 2013-8-12(月)上野不忍池 暑さ厳しき折、都合により中止致します。
- 2013-9-24(火)多摩川台公園 東急東横線多摩川駅改札口10時集合

多摩支部長交代しました

二十五年度から多摩支部長が田沢博さんから宮嶋ふみ子さん(バトンタッチされました。田沢さんご尽力ありがとうございました。宮嶋さんご活躍を期待します。

訃報 会員 妻神義美さん 平成二十五年四月逝去しました。享年九十三歳。ご冥福を祈ります。